

総合科学の基礎C
哲学思想の基礎

2018/5/11

民主主義と多数決

マークシートの記入要領

10ケタの学生番号を記入

名前

今日の日付

哲学

No

名前

月 日

10ケタの学生番号を鉛筆でマーク

小テストなどに
使います。

ここに注意！

マーク

良い例

悪い例

Y

前回分の小テスト

問1

89%

• パルメニデスは存在をどのように考えたか。

① 一にして不変

② 多数にして不変

③ 存在の背後に普遍的なアイデアが実在する

④ 個物は素材と形相で構成される

問2

95%

- プラトンは存在をどのように考えたか
 - ① 一にして不変
 - ② 多数にして不変
 - ③ 存在の背後に普遍的なアイデアが実在する
 - ④ 個物は素材と形相で構成される

問3

91%

- アリストテレスは存在をどのように考えたか
 - ① 一にして不変
 - ② 多数にして不変
 - ③ 存在の背後に普遍的なアイデアが実在する
 - ④ 個物は素材と形相で構成される

問4

72%

• 認識論を英語で言うと

① Psychology

② Ontology

③ Epistemology

④ Phenomenology

問5

41%

• チョムスキーはどのように考えたか

① 言語は経験によって獲得される

② 人類の諸言語の文法は多様で共通点がない

③ 色彩語は普遍的である

④ 言語は人間に生得的である

問6

82%

• ヒュームの考えはどれか。

- ① 「事実」と「正しいこと」は異なる
- ② 「正しいこと」は事実に根拠がある
- ③ 自然を研究することで「道徳的に正しいこと」が得られる
- ④ 道徳は人間の自然的本性に由来する

学生のコメント

ネット情報

- 出典の書き方は、「制作者、ページのタイトル、URL、閲覧日」です。
- 制作者が何者か調べましたか？
- 別件ですが、“”という引用符は日本語の文章では通常は使いません。
- 「」と『』の使い方がおかしい人がまだ何人かいます。

民主主義と多数決

- 「多数決は多数派の権威がどうしても強くなるので、多数派の専制になりかねないというリスクを孕む」。
- 「なぜ意見の違いがある時に多数決で決まった意見が正しいと考えることが一般的になったのか、どうして討論や対話が行われることが少ないのか疑問に思った」。
- 「先生は多数決で決まってあるものではないとおっしゃっていましたが、そうであれば一体なにが私たちの価値観を決定しているのでしょうか」。
- 「民主主義の根幹は多数決にあるのではなく、人民一人一人がよりよい社会を形成するために努力することにある」。

というわけで、

- 今回は「民主主義と多数決」というテーマで講義をします。
- その中で、「理性的に考えること」という話が出てきますので、一度、民主主義の話へ迂回してから、理性や知性の話をするという流れにします。

★たぶん、次回はこのファイルの後半。

橋下徹氏のインタビュー

- 「メディアや知識人は政治家に対して国民の声を聴けと言う。で、国民に耳を傾けると今度は大衆迎合主義と言う。どっちやねん！」
 - 毎日新聞(2017年1月12日)
 - <http://mainichi.jp/articles/20170112/k00/00m/010/125000d>
- メディアも政治家も「多数決」と「民主主義」を混同している。

民主主義は多数決ではない

- 多数決で「正解」が得られる場合
 - 各人が平均して50%を超える確率で正解が出せる課題(コンドルセの定理)
- 得られない場合
 - 上記以外。
 - その課題に関する知識がない場合
 - どうでもよいことの場合
- 「何でも国民投票」は危険。
 - 感情や政治家の人気で決まる。
 - 多数派の専制になる。

代議制民主主義の代表の資質

- 「ある人が、公正な討議の場で自分の能力を大衆に向かって示してみせたとき、大衆は、たいていの場合、本能的にその人が有能な人間だと見分けることができる」(J.S.ミル『代議制統治論』)
 - ＝有能な人間かどうかは多数決で決めることができる。
- 代議制民主主義とは、自分たちよりも対話の能力に優れた人たちを選んで、理性的な対話により合理的な結論を出してもらうこと。
 - － 選挙で選ばれた代表に全権委任するわけではない。

多数決は多数派の専制になる

- たとえば、沖縄に米軍基地を置き続けることを、日本国民の多数決で決めたらどうなるか？

民主主義とは、 共同してよく生きるための制度である

- 「万人の万人に対する戦い」(ホッブズ『リヴァイアサン』1651年)
 - 国王の支配を正当化。
 - 臣民の服従に応えるために、王は人権の保障を求められる。
- 社会契約論(ロック『統治二論』1690年)
 - 国家権力の正当性: 人権の保障。
 - 国家権力がその義務を果たさなかった場合: 革命権

民主主義とは、 一般意思に従うことである

- 「共同体の意志と個人の意思の一致」(ルソー『社会契約論』1763年)
 - 問題はやはり、国家権力の正当性
 - 特定の個人である国王への服従は否定。
 - 共同体の意志と自分の意志が一致するなら、強制されなくても共同体の意志に従ってふるまう。
 - 「ルールを守る」≡ 道德。
 - 道德を「強制」という非道德的手段で実現することは矛盾。

共同体と個人の意思は どうして一致するのか？

- すべての人にとって、生存のために必要なものは基本的に同じだから。
 - ＝「共同体の意志」と基本的人権は表裏一体。
 - カントは、一般意思を「道徳法則」と読み替え。
- ただし、「目のみえぬ大衆は、何が自分たちのためになるのかを知ることがまれだから、自分が欲することを知らないことがよくある」。
 - － 共同体の意志は多数派の意志ではない。
 - 多数派の利益≠すべての人の利益

今日の小テスト

問1

- 多数決で「正解」が得られる場合は、次のうちどれか。
 - ① 民主主義社会で問題になるすべての課題。
 - ② 郵便事業を国営で行うか民営で行うか。
 - ③ 各人が平均して50%を超える確率で正解が出せる課題。
 - ④ 人それぞれで決めることが望ましい課題。

問2

- 何でも国民投票をすると、どうなるか。
 - ① すべての人が満足する結果が得られる。
 - ② 感情や政治家の人気で物事が決まる。
 - ③ 国民の正当な意見が実現する。
 - ④ 合理的で妥当な結論が得られる。

問3

- 代議制民主主義において、代表の役割は。
 - ① 自分の考えは国民の考えであるので、批判に屈せず貫く。
 - ② 理性的な対話により合理的な結論を出す。
 - ③ 政党の意向に従って議会で投票する。
 - ④ 国民から全権を委任されたことを自覚して行動する。

問4

- ホッブズはどのように考えたか。
 - ① 国王は臣民の人権を保障すべき。
 - ② 国家権力は絶対的なので臣民は決して逆らってはならない。
 - ③ 国王は万民と戦うために軍備を増強すべき。
 - ④ 国王の権力は世襲によって保障される。

問5

- ロックはどのように考えたか。
 - ① 国家権力が人権を保障しない場合、人民は革命する権利がある。
 - ② 国家権力は絶対的なので臣民は決して逆らってはならない。
 - ③ 民主主義国家では王政は廃止されるべきである。
 - ④ 人生はロックンロールである。

問6

- ルソーはどのように考えたか。
 - ① 共同体の権力は絶対的なので、国民は決して逆らってはならない。
 - ② 国民は共同体を形成するにあたってすべての権利を共同体に預ける。
 - ③ 共同体の意志は多数決によって決定できる。
 - ④ 共同体の意志と自分の意志が一致するなら、強制されなくても共同体の意志に従ってふるまう。

今日の宿題

- 授業コメントをmanabaで提出。
 - 締め切りは5月15日(火)17時。
 - 今日の話は『人をつなぐ対話の技術』(日本実業出版)をもとにしています。詳しく知りたい人は買って読んでください。